

氏名	杉山成史
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博甲第 5393 号
学位授与の日付	平成 28 年 9 月 30 日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科 機能再生・再建科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)

学位論文題目	Risk factors of thrombosis in a single method of microsurgical head and neck reconstruction: A multi-institutional study of 773 reconstructions with a free jejunal graft after total pharyngolaryngoesophagectomy for hypopharyngeal cancer (マイクロサージャリーによる頭頸部再建における血栓の危険因子：下咽頭癌に対する咽頭喉頭頸部食道摘出術後の遊離空腸移植773例の多施設共同研究)
--------	--

論文審査委員	教授 西崎 和則 教授 笠原 真悟 准教授 渡邊 豊彦
--------	-----------------------------

学位論文内容の要旨

【背景】遊離皮弁を用いた頭頸部再建において、血管吻合部血栓の危険因子を調査した報告はあるが、様々な切除範囲と再建材料が含まれているため信頼性が低い。そこで本研究では、切除範囲と再建材料を統一して調査を行った。

【方法】1995年1月から2006年12月の間に下咽頭癌に対し咽頭喉頭頸部食道摘出術後に遊離空腸移植による再建を施行された773例を対象として、血栓形成の危険因子を多変量解析した。

【結果】全773例中23例(3.0%)で術後に吻合部血栓を認めた。単変量解析では再発が有意な危険因子であった。初発例のみに限定した多変量解析では、出血量増加が有意な危険因子であった。プロスタグランジン E1 投与による血栓予防効果は認めなかった。

【結論】出血量増加が遊離組織移植における血栓形成の危険因子であるという報告は、本研究が初めてである。その機序ははっきりしないが、血圧低下や全身状態悪化による血流低下が血栓を引き起こす可能性が考えられた。

論文審査結果の要旨

本研究は、他施設共同研究として下咽頭ガンに対する咽頭食摘出術後に遊離空腸を用いた血管吻合による消化管再建時の血栓形成の危険因子を単変量、多変量で解析をしたものである。血栓形成のリスクファクターとして、単変量では再発が、多変量解析では出血量が関係していることを明らかにすることで、臨床上重要な知見を得たものとして価値ある業績と認める。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。